

[様式2 (汚染水処理対策委員会に報告し、一般公開となるものです)]

提案書	
技術分野	①汚染水貯蔵
提案件名	汚染水配水管路の簡易地中埋設
提案者	公益社団法人 土木学会
<p>1. 技術等の概要</p> <p>汚染水貯蔵においてタンク等貯水設備について着目されているが、長延長の配水管路からの漏水対策も見逃してはならない。そこで管路の簡易な地中埋設を提案する。これは送水管からの漏水の拡散防止ならびにパイプや継ぎ手の腐食による漏水に対して有効であると考えられる。</p> <p>【特徴】</p> <p>送水管を埋設することにより、送水管からの漏水時に広範囲への拡散を防止するとともに、耐震性の向上を図る。併せて既存の送水管系と併せて送水管の冗長性を向上させる。さらに大規模な掘削を必要とせず、既存の製品・技術の転用をはかる。</p> <p>【仕様】</p> <p>① 2重のプレキャスト材の間をベントナイトで充填し高い止水性を確保する。また、プレキャスト内枠の内側には防水シートを設置する。雨水の侵入を防止するために密閉できる天板を設置する。</p> <p>② プレキャスト材の継手部はシーリング材あるいはコーキング剤により防水性と柔軟性を確保する。</p> <p>③ 適当な間隔で隔壁を設置し漏水時の汚染水の拡散を防止する。また、送水管直下に水漏れ検知センサーを設置すれば、遠隔監視が可能となる。</p> <p>④ やや大きな漏水が発生した場合には、その区画のみ管路から切り離せるように、適当な間隔で分岐管をあらかじめ設置する。このような場合に対処するために、互いに補完できる並列2系統（埋設型枠は別）の設置が望ましい。</p> <div style="text-align: center;"> </div>	
<p>2. 備考</p> <p>・ 開発・実用化の状況</p> <p>既存の上水配水設備あるいは側溝用のプレキャスト材の使用が可能ではないか。耐震性の確保には水道管に対する技術が活用できる。</p> <p>・ 開発・実用化に向けた課題・留意点</p> <p>・ その他</p>	